

# 茶病虫害防除情報

令和5年7月28日

【第25号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

大切な秋芽の充実を図る

## 秋芽生育期の病虫害防除対策

今年産本茶生産も終盤になりました。連日の猛暑の中の茶生産ご苦労様です。今回は秋芽生育期の病虫害防除対策についてお知らせします。秋芽生育期には主要な病虫害が多発生します。これらの病虫害は秋芽の生育充実を損ない、来年一番茶の収量・品質に大きく影響します。また、発生した病虫害は発生源となり、来年の発生量を左右します。この時期は労力には比較的ゆとりがあり、農薬の使用制約も少ないので入念な防除に努めましょう。今年も二番茶後の浅刈り、深刈りなど更新園が多いため秋芽の生育は様々ですので芽の生育状態に合わせた防除を心掛けます。

☆ 発生する病虫害・・・炭疽病 新梢枯死症 網もち病 **チャノミドリヒメコバイ** **チャノキイロアザミマ** **チャノホカ**  
**ハマキムシ類** **シャクトリムシ類** **チャノホリダニ** **カンザワハダニ** **マダラカサハラムシ** **チャトゲコジラミ**など

☆ 防除のすすめ方・・・秋芽生育期間中の被害を防ぐように 1 回目・萌芽～1 葉期、2 回目・3-4 葉期に混用散布による体系防除と補完防除で、総合的に病虫害を防除します。  
品種、更新園などで芽の生育が異なるので生育に合わせた防除をします。

### ☆ 病虫害の発生と防除のポイント

**炭疽病・・・多** **網もち病・・・やや少** **新梢枯死症・・・並**

降雨や多湿条件で生育中の秋芽の軟らかい新葉が感染しますので、秋芽生育期の天候に留意し、予防防除に努めましょう。基本的には萌芽～1 葉期に予防効果のある薬剤、3～4 葉期に治療効果のある DMI 系薬剤を散布して防除します。また、新しく確立されたダコニール 1000 と DMI 系薬剤を混用して 2～4 葉期に 1 回散布する新技術は体系防除以上の安定した高い防除効果があります。なお、網もち病の発病の恐れのある茶園は生育後半に銅水和剤を、新梢枯死症はストロベリン系薬剤を 2 葉期頃に補完散布すると的確に防除できます。

**チャノミドリヒメコバイ・・・やや多** **チャノキイロアザミマ・・・やや多** **マダラカサハラムシ・・・局地的発生**

今年の発生は三番茶期までは平年並みの発生で経過し、被害はやや少ない状況でした。一般に乾燥した晴天が続くと急激に増殖し、秋芽の生育期は最も被害を受ける恐れがあります。特に萌芽～生育初期の加害で被害が大きくなるため防除は遅れないようにします。増殖が速いため、残効性の長い薬剤で、2 回防除が必要です。一部地域で増加しているマダラカサハラムシは萌芽・生育初期に同時防除します。

**チャノホカ・・・多** **チャノコカモンハマキ・・・並** **チャハマキ・・・やや多** **モギコガシカ**

チャノホカは第 4・5 世代、ハマキムシ類は第 3・4 世代の発生で、多発することがあります。いずれも若齢幼虫期をねらい体系防除でも防除されることがありますが、多い場合や発生時期が合わない場合には専用剤で補完防除します。モギコガシカは局部的に発生がみられるので、発生を確認し、若齢幼虫期に防除します。

**カンザワハダニ・・・やや多** **チャトゲコジラミ・・・全地域に発生** **チャノホリダニ**

最近カンザワハダニは更新園などに一時的に多発生することが多く防除が必要です。また、チャトゲコジラミは県内全域に発生が拡大している状況ですので、第 3 世代幼虫を若齢期に体系防除の 2 回目で同時防除します。

## ☆ 防 除 対 策

### 秋芽生育期の病害虫基幹防除体系による防除法

防除時期	対象病害虫	防除薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用基準
秋芽生育期	炭疽病	<b>1 回目 (萌芽-1 葉期)</b>		
萌芽期	新梢枯死症	フロンサイト SC (南薩 北薩)	2000	14 日前 1 回
↓ ◎ 1 回目	網もち病	ダコニール 1000 (日置)	700~1000	10 日前 1 回
1 葉期	もち病	ペフトー水和剤 (種子島)	500~700	7 日前 2 回
↓	褐色円星病	+		
↓		コテツフロアブル (日置 北薩 始良 種子)	2000	7 日前 2 回
2 葉期	チャノミドリヒメヨコハイ	グレース乳剤 (南薩 肝属)	2000	14 日前 1 回
↓	チャノキイロアザミウマ	ガンバ水和剤 (曾於)	1000~1500	14 日前 1 回
↓	チャノホリカ ハマキムシ類	<b>2 回目 (3-4 葉期)</b>		
3 葉期	ヨモキエダシヤク	インダーフロアブル (本土全地区)	5000~8000	7 日前 2 回
↓ ◎ 2 回目	チャノホリタニ	オンリーワンフロアブル (種子島)	2000~3000	7 日前 2 回
↓	カンザワハダニ	+		
4-5 葉期	マダラカサハラムシ	コテツフロアブル (南薩)	2000	7 日前 2 回
	チャトゲコナジラミ	ガンバ水和剤 (日置始良肝属種子島)	1000~1500	14 日前 1 回
		グレース乳剤 (北薩)	2000	14 日前 1 回
		アグリメック (曾於)	1000	7 日前 1 回

### 秋芽生育期体系防除の他、問題になる病害虫の補完防除法

対象病害虫	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
新梢枯死症	秋芽 2 葉期頃	アミスター 20 フロアブル	2000	14 日前 3 回
網もち病 (発生の多い園)	秋芽 4-6 葉期 (8 月下~9 月上旬)	クプロシールト	1000	前日 -
		コサイト 3000	1000	14 日前 -
		フジトールフロアブル	500	14 日前 -
ハマキムシ類	若齢幼虫期	アフアム乳剤	1000~2000	7 日前 1 回
チャノホリカ	(卵~葉潜幼虫期)	フェルコンフロアブル	4000~8000	7 日前 2 回
ヨモキエダシヤク		ディアナ SC	2500~5000	前日 1 回
チャノホリタニ	秋芽生育初期	ガンマイトフロアブル	1000~2000	14 日前 2 回
	発生初期	スターマイトプラスフロアブル	1000	14 日前 1 回
カンザワハダニ	発生初期	ダニサラバフロアブル	1000~2000	7 日前 2 回
		マイトコーネフロアブル	1000	14 日前 1 回
		アグリメック	1000	7 日前 1 回
チャトゲコナジラミ	若齢幼虫発生期	ガンバ水和剤	1500	14 日前 1 回
		ディアナ SC	2500~5000	前日 1 回

## 秋芽生育期の炭疽病など病害の殺菌剤混用散布による新防除法

対象病害	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
炭疽病	2-4 葉期	ダコニール 1000	700~1000	10 日前 1 回
新梢枯死症	(萌芽後最初の	+		
網もち病	降雨から 11-	インダーフロアブル 又は	5000~8000	7 日前 2 回
	12 日後迄)	オンリーワンフロアブル	2000~3000	7 日前 2 回

### 留意事項

- ☆ 本混用散布は秋芽 2 回目散布時 (2~4 葉期) に行い、殺虫剤と 3 種混用散布とする。
- ☆ 本混用散布法が栽培曆に採用されている地区・・・鹿児島・日置地区  
始良地区 曾於地区 肝属地区
- ☆ 混用の際の殺菌剤の使用濃度は伝染源量、降雨状況などにより多発条件では高濃度、少発条件では低濃度など適宜判断する。
- ☆ 新梢枯死症の発生が多い茶園では、2-3 葉期散布の効果が高い。
- ☆ 網もち病の発生が多い園は 3-4 葉期散布が良く、更に 1 週間後 4-6 葉期に銅水和剤を追加散布すると効果的である。
- ☆ ダコニール 1000 とインダーフロアブルまたはオンリーワンフロアブルおよび主要殺虫剤との 3 種混用は散布試験の結果葉害などは確認されていない。
- ☆ 害虫防除の殺虫剤萌芽-1 葉期散布は必ず実施する。
- ☆ 本防除法は予察技術応用で、薬剤省略、低濃度使用などにより効率的防除が可能になる。

### 秋芽生育期薬剤散布時期の芽の生育状態



萌芽-1 葉期

秋芽 1 回目散布時期



2-4 葉期

秋芽 2 回目散布時期

殺菌剤混用散布 (新防除法)

ダコニール 1000 + インダーフロアブル混用散布時期

オンリーワンフロアブル